

## 会議録

### 1. 開会

### 2. 話題

(市長)

皆さん、こんにちは。お忙しい中お越しいただき、誠にありがとうございます。本日は、定例記者会見と予算発表を合わせて行うため、若干時間が長くなるかと思いますがよろしくお願いたします。まずは、記者会見について、本日は3点のことについて、お話ししたいと思います。

#### **(1) 第45回千歳 JAL 国際マラソンの開催について**

千歳 J A L 国際マラソンにつきましては、例年同様、公益財団法人千歳市スポーツ協会、日本航空株式会社、北海道新聞社の主催で、本年6月1日に開催されます。

本大会は、自然豊かな「新緑のトンネル」を駆け抜ける林道コースが特徴であり、毎年多くの参加者から好評をいただき、市民はもとより国内外のランナーの方々が参加される、千歳市を代表する一大スポーツイベントであります。

今回の種目は、フルマラソン、ハーフマラソン、3 km マラソンの3種目であり、最近の大会においては、ハーフマラソンの代わりに17 km マラソンを行っておりましたが、札幌に本社のある、株式会社伊藤組様のご協力により、今回、同社が所有する林道の一部を再びお借りし、ハーフマラソンが6年ぶりに復活することとなりました。

また、これと同時に、フルマラソンとハーフマラソンのコースについても、令和4年度以降に使用していた『スタート直後、道央自動車道の千歳インターチェンジに繋がる交差点を横切り、その後2 km程、「市道真町泉沢大通」を走って林道に入る』コースは使用せず、今回からは、スタート後、すぐに直接林道に入る以前のコースを、再び使用することとなっております。

定員は、フルマラソンとハーフマラソンがそれぞれ3,500名、3 km マラソンが400名となっており、申込みの受付は、2月18日から3月31日まで、インターネットにて行われますので、多くのランナーの皆さんの参加を心よりお待ちしております。

## (2) 次世代半導体関連事業について

1点目は、工事等の進捗状況についてであります。

ラピダス社の半導体製造工場「IIM-1」の建設工事につきましては、地上躯体工事が完了し、内装・外装工事、設備工事などが進められ、本日の時点において、現場に、4,300～4,400人の作業員が従事しております。

パイロットライン稼働までの工事全体の進捗率としては、1月末時点で85.7%であり、建設スケジュールどおり順調に進んでいると伺っております。

現在は、半導体製造装置の搬入と設置作業が本格化していると伺っており、引き続き事業者と連携しながら、必要な対応を行ってまいります。

2点目は、半導体関連企業の本市への立地状況についてであります。

前回11月の本定例会見以降における、市内のオフィス立地状況につきましては、11月に半導体製造装置事業を行う「アプライドマテリアルズジャパン株式会社」が、12月に、半導体製造装置の組立・設置・メンテナンス・改造を行う「NDSソリューション株式会社」及び、製造・設計開発の人材派遣事業・請負事業を行う「UTエイム株式会社」及び、半導体工場設備の設計・施工・保守等を行う「ジャパンマテリアル株式会社」並びに、半導体製造装置のメンテナンスサービス等を行う「株式会社SCREEN SPE サービス」が、それぞれ市内にサービス拠点を設置されたところであります。昨年12月末で、37社となっております。

本市といたしましては、今後も企業ニーズの把握に努めるとともに、きめ細かな支援を通じて、半導体関連企業の集積に向けて取り組んでまいります。

3点目は、「千歳市将来ビジョン」についてであります。

本ビジョンは、一昨年から策定作業を進めてきたものであり、このたび完成したところであります。

今後、本市では、ラピダス社の立地に伴って企業集積が進み、人口などが大きく変化すると考えており、本ビジョンでは、この変化に加え、半導体産業やラピダス社のプロジェクトに関する概要や、本市が行ってきた調査分析内容などを掲載しています。

ビジョンについては、「本編」と、本日皆さんにお配りしている、本編の主なポイントを整理した「概要版」のほか、将来のまちの発展を目指すために設定した3つのコンセプト、「新たな発想が創出されるまち」、「自然と人が共存するまち」、「テクノロジーにより暮らしが向上するまち」について視覚的にご理解をいただくため、4分と1分、15秒の、3本の「コンセプトムービー」を作成しております。

これらは、「市ホームページ」および「千歳市半導体情報ウェブサイト」に掲載しており、QRコードをお配りしている「概要版」の裏面に掲載しております。これから、1分バージョンのムービーを放映しますのでご覧ください。

「コンセプトムービー」については、SNSでの発信や、市民向けのセミナーの会場、道外での展示会など、様々な機会を通じて今後放映する予定であり、将来目指すまちの姿を多くの方に知っていただくことで、本市が持つ「可能性」や「魅力」を感じていただきたいと考えています。

本市においては、ビジョンで示すまちづくりの方向性について、今後、様々な機会を通じて、市民や事業者の皆さんにご理解、共感いただくことで、さらなるまちの発展に繋げてまいりたいと考えております。

### **(3) 史跡キウス周堤墓群ガイダンスセンターのオープンについて**

世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の一つであります国指定史跡「キウス周堤墓群」のガイダンスセンターにつきましては、本年1月末に建物の建築が終了し、4月25日のオープンに向け、現在、ガイダンスセンター内の展示制作などの準備を進めております。

ガイダンスセンターは、木造平屋建てで、延床面積は約200㎡であります。外壁は、市の景観計画の色彩基準色の範囲であるグレー系の色としており、建物左側の庇(ひさし)を支える壁には木目調の化粧アルミパネルを使い、軒下では、木の梁材(りょうざい)を見せるなど、周囲の自然景観との調和を考慮したものとなっております。

次に、ガイダンスセンターの展示につきましては、史跡キウス周堤墓群の出土品であります、石柱や石棒などの実物展示に加え、史跡の価値や環境などについて、壁面展示や映像モニターで紹介するほか、ジオラマ模型を設置し、映像と連動させることで、理解しやすい展示を行う予定であります。

建物には、展示室のほか、男子トイレ、女子トイレ、多機能トイレ、管理室、図書閲覧などができる多目的スペースなどを設けております。

市といたしましては、史跡の保存やその継承を図るとともに、ガイダンスセンターのオープンに伴い、多くの方々に来訪していただき、史跡キウス周堤墓群の価値や魅力を体感し、理解を深めていただきたいと考えております。

なお、オープンの詳細につきましては、4月初旬頃にプレスリリースいたします。私からは以上であります。

### 3. 質問及び意見交換

(記者)

将来ビジョンの件ですが、横田市長が職員としてまちづくりに知恵を絞られていた時代と比べると、かなり中身が変わった内容になっているのではないかと思います。まず、この将来ビジョンの完成版についての市長のお気持ちを伺いたいです。それから、今後具体的なものが出てくるのかもしれないのですが、このビジョンを基に、将来どういったまちにしたいのか、実際に概要版を見ると人口が10万2千人、その後の予測が下降線をたどっているのが気になりますが、市長のお言葉で具体的にどういったまちにしていきたいか伺いたいです。

(市長)

まず、将来ビジョンを作ると考えたのは、市長になってからです。ちょうど副市長として勤務して、その後、今回のラピダス社の進出が決まり、4月以降就任以降、今後まちがどのように変わるのか、先を読むことができない時期もありましたので、庁内でいろいろなケースを想定しながら、市民の皆さまに、どうお伝えしていこうという中で、まずは、将来ビジョンを策定いたしました。まちの動きはこれからのパイロットライン、2年後の量産ということで、着々と工事が進められていますが、実際にはまちの動きというのはご覧のとおりであり、いろいろなマンション、ホテルの建築が相次いでいます。また、市民のみなさんが、現状でも実感されていると思うのですが、例えば、新たな商業施設が北信濃にでき、そこへ入る店舗が更に増えたと聞いておりますし、すでにそのような効果が表れて来ていると感じております。それは飲食であったり、まちの不動産の動きであったり、また、消費活動等々、地元の事業者の方々の取引関係にも表れていると思います。こうした動きが、建設が終わって、稼働していくと、そのことに伴い、まちへの波及効果が出てくるのではないかと考えています。そういうことを表すためにも、今回ビジョンを作り、これをいろいろな機会に説明していきたいというのが今の考えであります。

また、近隣のすぐ隣にある、科技大の動きについても、千歳市が注目されていることもあり、そういう意味では好循環につながっていると思いますので、そういったことも大いに期待できると思います。これからのまちの成長、発展に、市民サービスの向上に取り込んでいくと、そのことによって、より産業集積が進んで、企業立地や雇用の創出につながります。学生の皆さんについては今まで道外に出ている部分が、選択肢が広がるということになりますので、そういうような波及効果が出るような、政策なり施策をこれから展開してまいりたいと思っています。具体的な取り組みはいろいろなところで出てくると思いますし、それ

は、スパンが長い分もあると思いますので、遅れることがないように行政としてしっかりと対応して参りたいと思います。

(記者)

例えば、市長が市職員として勤めていたときに、お若いときに抱いていた市の将来像と、今回できた市の青写真にかなりのギャップがあると思いますが、個人的に思いはないのでしょうか。

(市長)

ギャップについては、以前からこのまちは企業誘致を積極的に進めていくという大きな方針がありました。それが、雇用の創出であったり、まちの人口増を及ぼすということで、空港との連携など他にもいろいろとやることがありますが、企業誘致はいくつかの重要な柱として進めてまいりましたので、その中で第7期総合計画の将来都市像が、「人をつなぐ世界をつなぐ 空のまち ちとせ」というのが将来都市像のフレーズですが、私はまさにこのフレーズとマッチングしていると思っています。

それから、先ほどの人口の関係でもありましたが、将来的にはラピダス効果ということで、7,800人増加するだろうということで、曲線としては最終的に下降線になりますが、これは全国的な少子高齢化という流れの中で、自然減が大きく影響しているので、下降曲線にならざるを得ないということで、これから上方修正になればよいとは思っていますが、今の時点ではそういう状況も影響しているということでもあります。

(記者)

例えば、熊本県菊陽町のように、半導体産業の進出のおかげで潤った方もいるし、あるいは、伝統的な産業が衰退してしまったり、あるいは、ないがしろにされてしまうという負の部分もありますが、個人的には菊陽町周辺のまちづくりは失敗だったと思っているのですが、あのようにならないために千歳市がラピダス社と共にどういうまちづくりを歩んでいくべきか、市民が暮らしやすいまちづくり、ラピダスが来て、さらに市民にも恩恵があり、産業全体にも良い影響があるまちになるためには、どういったことが必要だとお考えでしょうか。

(市長)

個別の政策や具体的な取り組みについてはこれからやっていく中で、既に、今年度の予算

や次年度、次々年度以降の予算措置の中で、いろいろなものが入ってきます。熊本県菊陽町周辺については、他の自治体のことについてお話するような立場ではありません。現地に私は2回ほど行ってありますが、どうしても農用地を活用したといった部分もあり、それとは本市の状況とは違うのかなと思っています。いずれにしても、一言で表すとすれば、ラピダス社においては、千歳に来てよかったとっていただけるように、また、市民の皆さまにはラピダス社が来てよかったとっていただけるように、そういうような win-win の関係ができるように、これからも緊密に連携しながら、まちづくりについても進めて参りたいと思っています。

(記者)

南千歳駅前にあるレラさんについて、現状どうなりそうかというような情報は市長に入っていますでしょうか。

(市長)

結論としては、あまりお話できる情報は入っておりません。長年にわたり市の商業施設ということで、多くの皆さまに利用されてきた施設であります。私も何回も利用させていただいたこともありますので、非常に残念に思っておりますが、今現在、3店舗が営業している状況とお聞きしております。今後については、契約期間がそれぞれの店舗で異なりますので、最終的な営業終了時期が決まっていないということはお聞きをしております。また、今後の利活用についても最終的に所有者が判断を行うということではありますが、その辺のことについては関心を持っているところではありますし、また、空港やラピダス社の工場、また、いま行おうとしている周辺の産業集積の新しい工業団地についても、南千歳駅の至近の距離にあるということで、利便性の非常に良い場所です。そういう部分では様々な利活用が検討されるのかなと思っております。今の段階で言えることは以上であります。

(記者)

PFAS の関係でお伺いできればと思います。安平川で工業用水とはいえ、国が定める暫定の飲料水の目標値を上回った PFAS が検出されました。昨年7月の市長定例会見で早期に原因が究明されることが必要であると述べられていて、その後、道が事業所へ聞き取りや、検査を行っていると思うのですが、私の知る限りでは、原因が特定など相応の対応が取られたという認識はありません。7月に50を上回っているということがわかって、今のところ調べてはいるけども原因はわからない。この状況についてお考えをお伺いできればと思

ます。

(市長)

苫小牧の方で数値が出たことについてですか。

(記者)

数値が出て、その後の市長の定例会見のときに、質問への回答として、早期に原因が究明されることが必要と述べられていました。今のところ原因はわからないというところだと思うのですが、半年近く経っている中で、その間の状況の原因の特定だとか調査の動きというものをどのように認識しているか、お考えをお聞きできたらと思います。

(次世代半導体拠点推進室長)

暫定値が 50 ナノグラム/l を大幅に上回る数値が出ましたが、1 か月後に再調査しましたら、暫定基準を大幅に下回っているということがわかりました。その後、道の方で原因特定ということで調査を続けていると伺っています。以上です。

(記者)

早急に特定が必要だということで、市として下水を受ける立場である中、量産化まで時間がありますが、半年は経っていて、この間の時間をどのようにお考えか、聞けたらと思います。

(市長)

今説明したように、一度そういう値が出て、その後の数値が下がったということは私も報告を受けています。その後、具体的に発生源はどこかということは引き続き調査をすることだったので、しっかりと調査をしていただければと思っています。今後、私どもも最終的には排水を千歳川に流していくことになりまして、下水道の流す先として千歳川での調査をするということにしていますので、しっかりと水質管理をしていきたいと考えています。

(記者)

先日、埼玉県の八潮市で下水道管の関連に伴う道路の陥没が報道されていると思いますが、事故を受けて千歳市として下水道管の点検を実施、あるいは今後の予定など、対応につ

いてお考えも含めて教えていただきたいのと、一般論として、普段の点検の方法や頻度、更新のタイミングや時期について、今どうなっているかわかる範囲でかまいませんので、教えていただきたいと思います。

(市長)

詳細まではお答えできないと思いますが、埼玉県八潮市の事故は災害級のことだと思っています。大変憂慮しています。トラックを運転されていた方が一日も早く発見されることを願っております。周辺の多くの地域に影響を及ぼしているということもありますので、早く復旧と日常生活を取り戻していただけるように願っているところであります。

埼玉県の例とは規模が大きく異なりますけども、数年前に本市でも青葉丘の幹線で美々の方から戻ってくる下水道と工業団地からくる下水道の接合部の付近で、同じように硫化水素の発生で下水道管に一部破損があつて道路が陥没した事例がありました。大事には至らず、すぐに復旧をして、その後水道局で計画的にカメラを投入するなどの調査を、管更生事業を行いながら実施しているところであります。

今回の事例によって、国から都道府県に対して、2000mm以上の管で一定の流量が流れる規模については調査の指示があつたと報告を受けています。今回、該当はありませんが、一部口径で該当する部分が若干あるように聞いていますので、今年度中に調査をすると報告を受けています。調査については適宜、維持管理の中で実施をしていると聞いていますが、どういった調査内容を実施しているかというところは、今私からお答えすることはできません。以上であります。

(記者)

一部の調査は今年度中ということでしたが、2024年度ですか。

(市長)

2024年度、令和6年度中です。